

第5分科会 防災・災害復興

能登半島震災後の新建富山の対応(ゆるみ 201号抜粋)

富山支部 上梅澤保博 富樫豊

1 はじめに 2024.1月～2024.8月

上梅澤保博

『ゆるみ』誌201号では、今も影響が続く令和6年能登半島地震について富山支部の対応を特集しました。今回の分科会の発表資料として、201号の抜粋を記事に致します。

最初に、今村彰宏氏に現在(公社)富山県建築士会の非常勤専務理事として、令和6年能登半島地震へ富山県建築士会が他団体と連携しながら、その中核としていかに対応したか、貴重な資料と共に投稿頂きました。

その後続くのは、3月16日に行ったおしゃべり勉強会!「能登の震災状況報告&液状化対策工法の紹介」の前半部分である富樫豊(新建会員)の講演『能登半島地震2024被害報告～木造建物を中心に』の資料です。ZOOMで新建全国の方にも多数御参加頂きました。

これの第2弾ともいうべき合同企画が7月20日開催『(公社)富山県医師会・富山県建築士会の能登地震対応報告会と富山県医師会館見学会』です。富山県建築士会交流委員会・女性委員会を主体に新建富山共催で、富山県医師会のご協力を賜り、昨年新築されたばかりの富山県医師会館で行われました。医師会・建築士会の方々を含め49名もの多数が参加され、内容の濃い3団体合同企画でした。

その他富山支部の(中部ブロック)能登地震視察を米田氏と新潟支部の廣田氏に投稿頂いています。

私(上梅澤)も7月18日に新建の京都支部視察同行し内灘・門前町黒島町・門前町總持寺・輪島へ行き、未だに残る大きな爪痕に強い衝撃を受けました。

能登は金沢からは遠すぎます。復興の政治的拠点を能登中央に早急に持ってくるべきだと感じました。



輪島 倒壊ビル

2. 令和6年能登半島地震の影響を受けた方々を支援するため、富山県、高岡市、氷見市、射水市並びに建築関係団体7団体が相互に連携し実施した被災者支援活動報告 令和6年7月19日

(公社)富山県建築士会専務理事 今村彰宏

I. 応急危険度判定士派遣実績報告

1. 実施期間

令和6年1月3日(水)～令和6年1月16日(火)

2. 延べ参加判定士数

324人 [県市町村: 179人 民間: 145人 (内 建築士会会員 128人)]

II. 被災住宅相談所の実施状況報告

1. 令和6年1月17日(水)～令和6年2月18日(日)、令和6年4月17日(水)～令和6年5月31日(金)に実施

2. 高岡市・氷見市・射水市・富山市内にて実施

3. 連携した建築7団体

(一財)富山県建築住宅センター, (一社)富山県建築士事務所協会, (一社)富山県建設業協会, (一社)富山県優良住宅協会, (公社)日本建築家協会北陸支部富山地域会、
(一社)富山県建築組合連合会, (公社)富山県建築士会

4. 被災者の相談件数 1,183 件 (令和6年5月20日現在)

相談員延人数 516 人 (令和6年5月20日現在)

V. 木造住宅の耐震化と液状化被害復旧セミナー・相談会実施報告

1. 実施日程 (6回実施) 氷見、高岡、射水

2. 講師 前田哲宏氏 (富山県建築士会会員・地盤調査・住宅地盤技士・新建会員)

3. セミナーの参加者 346 人

内 個別相談者 132 件 (耐震化相談 61 件・液状化相談 71 件) 相談員延人数 41 人

4. 個別相談の主な内容

耐震化相談：耐震補強の必要・方法・箇所・予算・リフォームとの関係等

液状化相談：傾きを直す方法・地盤復旧の方法・部屋の隆起部の復旧方法等

VI. 被害家屋調査業務 (罹災証明二次調査) の実施報告

1. 高岡市・氷見市・射水市にて実施

2. 高岡市 令和6年2月27日(火)～

氷見市 令和6年2月29日(木)～

射水市 令和6年3月4日(月)～

1. 主には外部・内部の傾斜の測定と調査表の記入作業

2. 参加建築関係者の延人数 441 人 (令和6年5月20日現在)

VIII. 歴史的建造物の被災確認調査及び技術支援も実施

1月11日に富山県庁で会議があり、スタート。この事業は文化庁の指導で、2022年3月11日の5者協定にもとづく被災建物確認調査作業で文化財ドクター事業。5者は建築学会・建築士会連合会・建築家協会・土木学会・文化財防災センター。富山県の建築士会責任者は池田さんと今村。2月13日(火)に石川県庁で合同会議があり、3月16日(土)には、射水市でスタートし、建築士会では、射水市・富山市・滑川市・高岡市を担当、いずれ石川県調査にも協力が必要となると考えている。文化財的建物を壊されないようにする事が目的で、文化庁の事業です。新建富山の会員の方も長越さんはじめ8名の方が参加。

※今村氏(新建富山支部)によると、建築関係団体7団体が相互に連携し実施した被災者支援活動の全体を俯瞰して、新建富山支部の会員の貢献度は、約3割というところだそうです。

3. 能登半島地震2024被害～木造建物を中心に

富樫豊

能登半島地震2024については、発震後7ヶ月、本格被害調査の結果も出始め、我ら震災から学ぶべきこともかなり明確化されてきている。そのような時期における震災報告では、今後に向けた皆さんの関心が縦横斜につながる必要性を感じ、網羅的対処でなく繋がり中

心を念頭においた。ここでは、木造建築の被害から今後に向けて知見を簡単に述べる。

- ・設計の今後；耐震性能向上の評価は当然にしても、さらに強度向上を目指すのか、制震ダンパ設置にも可能性を広げていくのか。長継続時間や繰り返し到来地震の対応も。
- ・耐震化性能の今後として、既存不適格へのより質の高い対応も。
- ・耐震化について市民の理解促進支援を。・そもそも過疎地という格差問題の取り組みを。

4. 「令和6年能登半島地震」対応（医師会&建築士会）合同報告会と

富山県医師会館見学会報告

富山県建築士会交流委員会副委員長・新建築家技術者集団富山支部 上梅澤保博

開催日：令和6年7月20日（土）14：00～16：50

開催場所：富山県医師会館（富山市黒崎33番地）

報告者：富山県医師会会長 村上美也子氏 副会長 堀地肇氏、

富山県建築士会会長 西野晴仁氏 参加人数：（公社）富山県医師会 会長・副会長・事務局 5名 （公社）富山県建築士会 33名 一般 4名 新建築家技術者集団富山支部 5名 会館設計者 2名 合計 49名

I. 「令和6年能登半島地震」対応経過報告・質疑応答

医師会の村上会長より報告があり、その後建築士会の西野会長より報告あり。

II. 富山県医師会館建設経緯紹介・富山県医師会館見学

医師会の堀地副会長より15分間建設経緯紹介がありました。その後押田建築設計事務所の数井室長より平面計画・震災対応・日射計画についてお話をしました。

5-1. 能登半島地震視察報告

米田 正秀

視察の場所と概要



- ① 内灘町 … 砂丘地域に見られる液状化
- ② 黒島角海家 … 角海家（重伝建保存地区）
- ③ 総持寺 … 輪島市門前町の総持寺祖院
- ④ 輪島市 … 朝市通り（地震火災）、RC造の被災状況
- ⑤ 珠洲市 … 木造の多くは建物傾斜、倒壊

令和6年元旦に発生した地震は富山県内においての住宅被害は17,000棟を超えると発表されており、特に氷見市、高岡市、射水市の沿岸部の液状化被害が大きくなっています。県内の大勢の建築士が応急危

険度判定や住宅相談に協力しています。

5-2. 能登半島地震視察報告

新潟支部 廣田敏郎

内灘町の被害から

今回新建富山支部、新建中部ブロック共催の「能登半島地震視察」に参加しました。視察の趣旨は、現地を初めて視察する人の概略的視察とのことで参加者は10名、朝7時に内灘サンセットパークに集合3台の車に分かれて出発。案内役は富樫豊氏（富山支部）です。最初の視察地は砂丘地の内灘町で、液状化による被害が目立ちました

輪島市内の被害から

輪島には過去3回行ったことがあります。かなり昔になりますが今でも思い出すのは輪島の朝市の活気のある多くの店が立ち並んでいる様子です。今回行って、余りの変容にこれが同じ場所とは俄かには信じられませんでした。周辺が火事で木造の建物はすべて焼失、むき出しの鉄骨の骨組、鉄筋コンクリート造の内部の黒こげの残骸、茶色の車の残骸と、一面の焼け野原となってしまった火事の恐ろしさで、言葉では言い表せません。

その他の被害地について

今回の文化財関係の場所としては、長徳寺本堂と総持寺境内の建物、重伝建保存地区（黒島角海家）を見てきました。それぞれかなりの被害があり、修復するには相当の費用と期間を要することと思います。

最後は珠洲市でした。津波による被害が海岸線に沿ってかなり目立ちました。また、直下型地震による建物被害も大変多く見られ、全壊家屋や、道路上にはみ出している家屋、中には道路上にマンホールが浮上して、地震が非常に大きかったと想像できました。

6 編集後記

米田 正秀

□1月1日の能登半島地震から8か月になろうとしています。5月30日に新建の視察で被災地の状況を見てまいりましたが、ほとんど手つかずの状態でした。聞くところによれば、瓦礫の仮置き場などが不足し、片付けたくても搬出できない状況だとも聞きました。何とかできないものなのでしょうか？

□現在、住宅の改修工事をしていますが、ユニットバスの組立は依頼してから1ヶ月以上待たなければ出来ないと言われました。組立の施工者が能登半島地震の被災地に行っており、なかなか予定が組めないとのこと。被災され不自由な生活をしておられる方がまだまだ大勢おられます。速やかに日常生活に戻ることを願うばかりです。

能登半島地震の他団体の活動について—文化財保護の観点から

西一生

先日、北陸都市史学会に参加（2024.8.4）しました。今回は「令和6年能登半島地震における歴史的建造物・史料・考古資料の被災状況と課題」と題したシンポジウムが行われ各分野の報告がありました。建築分野からは、「文化財ドクター」に関する報告を金沢工大の山崎教授が行いました。とりわけ、考古学分野の「文化財レスキュー」や民間会社の活動報告に興味深く聞き入りました。能登における文化財の救出と課題は、人口当たりの文化財の多さ（輪島11.4%、珠洲7.1%、七尾5.2%、金沢0.9%）に特徴があり、能登半島の復興を考えると、歴史文化をどこまで復興できるかが課題であると指摘されました。復興は、外見だけではなく内面的な歴史や風土（精神）も復興されなければならないことは言うまでもありませんが、それ以上に地方災害の課題とこれまでと違った復興プロセスが必要だと感じました。